

今こそ「ことばの力を見つめ直すとき」

新型コロナウイルス感染症は、わたしたちを取り巻く環境を変えてしまいました。インターネット上でのひぼう中傷など相手を思いやる心が失われつつあります。

一方で、ことばに感謝の気持ちを込めたり、勇気づけられた人もいます。ことばのあり方が問われています。

新しい時代へと向かいつつある今、すべてのものに温かいまなざしを注いだ、金子みすゞのことばに注目してみます。

金子みすゞ記念館学芸員のおふたりに聞きました

県外から移住し、昨年4月から金子みすゞ記念館の学芸員として勤務するおふたり。

みすゞの詩を読み込み、「新・仙崎八景展」や「金子みすゞの甦り 矢崎節夫“みすゞ探しの旅”展」といった企画展を開催してきました。そのおふたりにコロナ時代におけるみすゞの「ことばの力」についてお話いただきました。



(写真左から) 金子みすゞ記念館学芸員の宇野智香さん、盛澤香乃さん

アメリカのラジオ局の「コロナウイルスで困難な時、心を開放してくれる本」の特集で、みすゞの詩が紹介されたそうですね？
盛澤さん…「積った雪」が紹介されました。みすゞの豊かな想像力がうかがえる一編です。想像力自体は誰にでも備わっているものですが、その想像力をどのように広げるかはその人次第です。みすゞの場合は、その想像力できまざまなもののや人に思いを寄せています。みすゞの詩から優しさや思いやりを受け取り、温かい印象を抱くのはこういったところでしょう。

上の雪と下の雪、そして中の雪。それぞれ異なった位置にある雪は、異なった立場と状況にある私たち人間と同じです。上の雪の寒さを下の雪と中の雪は知らないでしょう。下の雪の重さを上の雪と中の雪は知っていても、実際に体感することはできません。中の雪のさみしさにいたっては、上の雪も下の雪もそれぞれの苦勞を背負いながらでは、察することすら難しいかもしれません。



▲アメリカで出版されている絵本

積った雪

上の雪

さむかるな。

つめたい月がさしていて。

下の雪

重かるな。

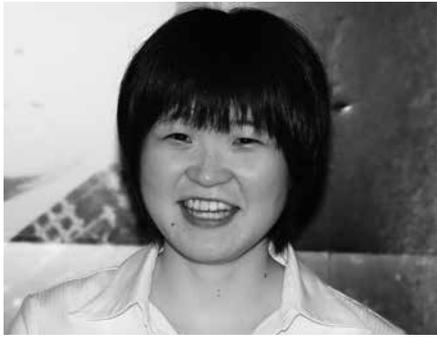
何百人ものせていて。

中の雪

さみしかるな。

空も地面もみえないで。

『金子みすゞ童謡全集』(JULA出版局)



▲「次からつぎへ」を紹介した宇野さん

みずぶの言葉には、どんな力があると考えていますか？

宇野さん…みずぶは、相手の立場を考えた上で自分の行動をするような人だったという印象を受けます。ものの見方、とらえ方が深く、優しく、それでもって感性が鋭い。誰もが目をつぶりたいことや見逃していた大切なことを淡々と言っています。優しさがありません。

鋭い感性と優しい眼差し、両方あるのが「みずぶ」で、そのことばは誰にでもわかりやすいから、多くの人に響くのですよね。

盛澤さん…言葉霊ことばたまというように日本では古来からことばには呪りよ力が宿ると考えていました。そ

れほどことばというのは人に与える影響が大きく、相手を元気づけることもあれば傷つけることもあります。

みずぶのことばに触れると、私たちは温かさを感じ、優しい気持ちになります。これがみずぶの『ことばの力』です。

新型コロナウイルス感染症の拡大は、生活や価値観をも変えてしまったように思いますが、このような時代におすすめの詩があれば教えてください。

宇野さん…私は「次からつぎへ」をお勧めしたいです。

「次からつぎへ」という詩は、「楽しんでいたことを、何かがきっかけでやめてしまわないといけない。しかし、次にすべきことを始めると、それはそれで楽しい。それが次々にやってくる。」という、一日の生活の中の出来事を詠んだ詩です。

私はこの、ひそかに何事も楽しんでしまうみずぶさんの心をうたった詩が大好きです。私の生活の中でも、「もつとこうであれがいいのになあ」と思うことがたくさんあります。



▲「さびしいとき」を紹介した盛澤さん

しかし、嫌だと思っていたことでも、いざやってみると楽しいことが多く、とてもこの詩に共感できます。この詩は、何気ない日常生活の中で楽しいことを見つけていますが、今のコロナ禍の世の中に当てはめて読んでみても、自粛したことによって、今まで気付かなかった新たな楽しみも見えてくるのではないのでしょうか。

ものごとを悪いように捉えなみずぶさんの側面がうかがえる詩なんです。

盛澤さん…私は「さびしいとき」を紹介します。

ここでいう仏さまとは、自分に寄り添ってくれる存在のことを指しています。つらい思いを

次からつぎへ

月夜に影踏みしていると、
「もうおやすみ」と呼びにくる。

（もつとあそぶといいのになあ。）
けれどかえってねていると、
いろんな夢がみられるよ。

そしていい夢みていると、
「さあ学校」とおこされる。

（学校がなければいいのになあ。）
けれど学校へ出てみると、
おつれがあるから、おもしろい。

みなで城取りしていると、
お鐘が教場へおしこめる。

（お鐘がなければいいのになあ。）
けれどお話ししていると、
それはやっぱりおもしろい。

ほかの子供もそうかしら、
私のように、そうかしら。

していても、人に素直に打ち明けることができないことがありませんよ。自分の本当の気持ちを知る人はおらず、友達がいつも通り、楽しそうに話をしていく姿に「さびしき」を感じ、また母親が元気づけてくれても消化できない「さびしき」を意識してしまい、なお「さびしき」が募ります。

最後の「私がさびしいときに、仏さまはさびしいの」は、この気持ちに誰か触れてくれないものかと切望しているように聞こえます。

結局、人は共感を求めずにはいられないことをみずゞは深く理解していたのかもしれない。だからこそ、このようなことばを詩の中で紡ぐことができるのでしょ。

良くも悪くも人の胸に響く『ことばの力』。まさに諸刃の剣です。誰のことばにもその強い力が宿っています。どのようなことばを人につけて、その『ことばの力』を使うのか。

現在のようなコロナ時代のなかでは、平常よりさらに厳しく、『ことばの力』の使い方が問われているような気がします。

さびしいとき

私がさびしいときに、よその人は知らないの。

私がさびしいときに、お友だちは笑うの。

私がさびしいときに、お母さんはやさしいの。

私がさびしいときに、仏さまはさびしいの。

『金子みずゞ童謡全集』（JULIA出版局）



▲さびしきを丸ごと受け入れてほしい

金子みずゞにまつわる最近の動きを紹介します

大津緑洋高校生徒による

「みずゞの詩映像化

プロジェクト」

昨年秋、大津緑洋高校の「総合的な探求の時間」の授業の一環である「長門学」の学習において、山口放送（KRY）の協力により、1年生がみずゞの詩の映像化に挑戦しました。

5〜6人のグループごとに詩の解釈を行い、撮影計画から絵コンテの作成、撮影、録音、編集まで、すべて生徒が自分たちで行いました。ふるさとが誇る詩人について学びながら、映像表現の奥深さやメディアの特性を体験し、16の詩が映像作品となって誕生しました。



▲「色紙（いろがみ）」の撮影風景

ちひろさんの

「明るいほうへ みんなで乗り越えよう！プロジェクト」

シンガーソングライターのちひろさんが、みずゞの詩「明るいほうへ」をテーマとした動画を制作しました。

新型コロナウイルス感染症に



▲動画には長門市からも多数参加した

▼大津緑洋高校生徒の16作品を視聴できます



「明るいほうへ」の動画はこちらから▲

没後90年記念 みずゞフレーム切手発売

みずゞの没後90年を記念したオリジナルフレーム切手が3月に発売されました。今回で3回目となるフレーム切手には、「金子みずゞ記念館」や、かまぼこ板を使ったモザイクアート、王子山から見た仙崎のまちなどの



▲1,000枚の限定販売

写真が使用されています。郵便局のネットワークを通じた全国へのみずゞの発信が期待されています。

負けずに乗り越えていこうという気持ちと、まわりの大切な人に向けて笑顔と元気を届けたいとの想いから制作され、子どもから92歳までの422人が出演し、ちひろさんの歌声にのせて、みずゞのことばを伝えていきます。動画はYouTubeやセンザキッチン内「長門市観光案内所 YUKUFE」でもご覧いただけます。

石をテーマとしたコラボ企画展を開催

金子みすゞ記念館
Kaneko Misuzu Memorial Museum



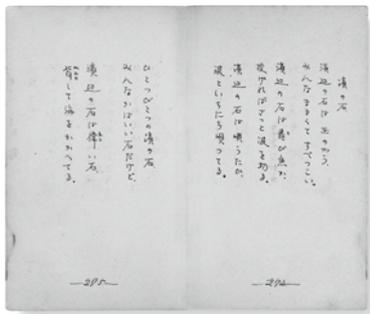
香月泰男美術館

みすゞの中の小石展

みすゞの詩に読まれるものは、日常生活から自然、空想の世界…と多岐に渡っており、普通の人なら見落としてしまうようなものにも目を向けています。

「石」は、どの人にとっても身近にあり、誰も気に留めないもののひとつです。みすゞは石の気持ちを想像したり、ただ見つめていたり、速さの表現に用いたり、何かに見立てたり…とさまざまな形で登場させています。

「石」ひとつにしても、さまざまに思いを巡らす



▲「浜の石」みすゞの自筆
(金子みすゞ著作保存会提供)

みすゞの目には、多彩な世界が広がっています。この機会にみすゞの感性に触れてみてはいかがでしょうか。

■開催期間

7月3日(金)～8月31日(月)
9時～17時(最終入館は16時30分)

■休館日 なし

香月泰男の表現 - 石と水

本展では、「石」と「水」をテーマに、絵画やオブジェなど香月の表現の多様性に迫ります。

30歳当時の香月は、石を花よりも身近なものに感じていました。描かれた石は、その形に共通性があり、このフォルムを完成させるために画稿に繰り返し描いています。

香月作品には水もたくさん登場し、アトリエでの制作活動の合間に、疲れを癒すために眺めていた自宅前を流れる三隅川は、良き題材になったようです。



▲石のオブジェ「巢鳩」。香月は自宅で鳩を飼っていた

丸みや凹凸の形状、色といった視覚的なものから、音、動きなど想像を働かせてお愉しみください。

■開催期間

開催中 ～ 8月31日(月)
9時～17時(最終入館は16時30分)

■休館日 毎週火曜日(8/11は特別開館)

2館共通イベント ワークショップ

●石ころペーパーウェイトを作ろう

7月26日(日) 10:00～15:00

描く?貼る?石ころをデコレーションしてオリジナルペーパーウェイトに変身させよう!
参加費 無料

●夏休み恒例☆おもちゃづくり教室

8月8日(土)、9日(日) 10:00～15:00

天然の木を使って自分だけのオブジェを作ろう
参加費 300円

2館共通イベント 学芸員によるギャラリートーク

共通のテーマである石をどのように表現したのか



詩人の視点から

解説します

画家の視点から



7月19日(日) 13:30～40分程度

8月22日(土) 11:00～40分程度

■金子みすゞ記念館 Tel: 26-5155

7月19日(日) 11:00～40分程度

8月22日(土) 13:30～40分程度

■香月泰男美術館 Tel: 43-2500